「書物・出版と社会変容」研究会　活動記録

・開催日・場所・報告者・報告タイトルなど。
・例会第一回から第四十五回までは第六号、第四十六回から第五十回までは第七号、五十一回から第五十四回までは第八号参照。

第五十五回　二〇一〇年四月十日　一橋大学佐野書院

万波寿子　「西本願寺と公家鑑」

小野　将　「小笠原諸島問題と一九世紀学術刊行物の連鎖波及」

第五十六回　二〇一〇年五月八日　一橋大学佐野書院

杉　仁　「在村の書物出版と風雅公共圏（試論）―武州多摩郡と上州を中心に」

寺島宏貴　「「官許・官准」新聞の成立と機能―明治二年（一八六九）刊『官准中外新聞』を軸に」

※第八回酘奇会

「酘奇会」は鈴木俊幸氏の命名。「奇」に「酘（おぼ）」れるという意味。数名の有志が名品・絶品・珍品・稀品・妙品・奇品・駄品を持ち寄る。出品品目は書物のみならず、出版に関する道具や板木・古活字・巻物などで、秘蔵コレクションを公開しモノたちへの思いの丈を懇切丁寧に陳述する。不定期開催。

第五十七回　二〇一〇年六月五日　一橋大学佐野書院

富塚昌輝　「序文をめぐる人々―依田学海『学海日録』を題材として」

金　時徳　「水戸学と壬辰戦争言説―『征韓偉略』とその周辺」

第五十八回　二〇一〇年七月三日　一橋大学佐野書院

小関悠一郎　「明君録の形成と民衆の政治意識―『肥後遊草』と『諸侯賢行録』を中心に」

柳沢昌紀　「小瀬甫庵著『年代紀略』の出版と改訂」